

巻頭言

公益社団法人 日本放射線技術学会
東北支部副支部長 須崎 勝正

まずは、平成29年10月28、29日の2日間、青森市で行われました第7回東北放射線医療技術学術大会の開催に際しまして、皆様より多大なるご支援ご協力を賜りましたことを心より感謝を申し上げます。本大会は第55回日本放射線技術学会東北支部学術大会と平成29年度日本診療放射線技師会東北地域学術大会の合同で開催いたしました。参加登録数は、新潟県を含む東北7県に加えて、関東圏からの参加者も加わり532名と大変多くの方々に参加していただき、成功裏に開催できました。

本大会のテーマは「放射線技術のLateral Thinking」としました。新たな発想は、論理的筋道だけではひらめかない。絶えず新鮮な思考をもって前向きに日々の問題に取り組む姿勢をテーマにしました。一般研究発表では100演題と例年より少なかったのですが、その分企画に力を入れ様々な新しい企画を行いました。特別講演では、弘前大学名誉教授岩崎晃先生に「ミスター放射線」と題してご講演していただきました。昔ながらの独特の津軽弁を交えた語り口で現世から来世までさまざまな話をしていただきました。東北地区には教え子が非常に多く、久しぶりにお会いしたいと多くの方が参加してくださったのも参加者が多くなった要因の一つと考えております。

シンポジウムではテーマを「業務としての撮影テクニック」を取り上げ、一般撮影、CT、MRI、ポータブル、歯科領域の5分野の講師の方々に報告していただきました。

新たな試みとして東北地域技師会企画では、ソリューションカンファランスとして、「ワークフローコントロール」「セーフティコントロール」「システムコントロール」「ドーズコントロール」の4つのセッションを用意し内容・進行はコーディネータにお任せいたしました

東北診療放射線女性技師の会「みちのくこまち」として、ハンズオン、レクチャーミーティングの2部構成とし、1部では実際に超音波装置を使用しての実習、2部では初めての乳腺病理として分かりやすく解説していただきました。

技術学会東北支部企画としてハンズオンセミナー「Wilhelm Camp (ウィルヘルムキャンプ) hands on training」と例年通りテクニカルミーティング6部門を行いました。

市民公開講座として、「今どきの放射線検査、治療とは」と題して、各分野から9名のその道のプロの診療放射線技師が次世代を担う中学、高校生を対象に分かりやすく話をしていただきました。

年々メーカーの協力が厳しくなっていることから、ランチョンセミナーを1日4社、2日間で8社とし、会場当たりの単価を下げメーカーが参加しやすいようにしました。

参加人数が多かったことにより会場によっては立ち見が多くなったことや情報交換会の会場が狭くメーカーなど当日申込者を断ったことなどが反省点です。

企画全体を通して参加していただいた方々には有益な時間を提供できたのではないかと考えております。大会の準備・運営にはたくさんのメーカー・会員の方々にご尽力をいただきました。この場をお借りして、心より感謝を申し上げます。

次回岩手大会からは技術学会と技師会が合同で行うようになってから2巡目に入ります。この大会に多くの方が参加し、益々発展しますよう期待しております。